
Catch the eye 2017年9月

2017/9/1
(金)

社会の多様性

ようやく涼しくなってきた。夏の間は頭にも熱気が入りこみ、身心ともに弛緩している感じだった。一昨日の夜からは少し気がしまり始めた。今日から9月、これから一気に年末まで進む。

「次から次と出てきて、もうノートが20冊になりました!」。子どもの頃は変わった子と言われて、結婚するまでに相当の読書家で、家庭生活の荒行をこなし、晩年期になって自分をとり戻したという女性が3ヶ月ほどで書いた自分の物語。まだほんの序章かもしれない。

「生きるって、どういうことだろう。小さい時からそういうことを考えていて、今もそれを知ろうと、学んでいるんだと思います」。難解な本を読み、遠くへ勉強に出かけ、そして家庭も守る。今はまだ道の途中だけど、そう遠くない時期に<自業>は定まる。真剣な目の奥に未来が見える。

「自分の好きでやっていることだから…」。起業家本人の知らないところで、事業活動の様子をブログに継続的に書いている。偶然そのブログを見つけて、お礼を言った起業家に、何気なく応える様子が清々しい。居合わせた他の人たちも同じ気持ちだったろう。

「本当に、今回、わたしががんばりました、先生!」。構想は頭の中にできている、でも人に伝えるカタチにまとめるのが不得手。それでも一念発起、友人の力も借り、まとめ上げ、人前で発表した昨年夏の自信に満ちた表情。がんばった甲斐があり、昨日会ったら飛躍の入口のよう。

公私ともに、人の思い、夢をきくことが多い。<話せる>と求めてもらえる面もある。そうでなければ「パーソナル・アシスタント」にもなれないが、とにかくこの世にはいろいろな思いをもった人たちが沢山いて、それぞれのフィールドで切磋琢磨していると観てとれる。

社会の多様性を仕組みではなく現実の姿として認識する。自分の身近な世界だけでなく、どこか知らないところで、誰かがその人なりの問題意識で動いている。ひょっとすると同じようなテーマで。そう想像すると、勇気もわくというもの。これもまた一つの仕合せ。

2017/9/6
(水)

本一服

今日はまた少し暑い。空は曇り、湿度が高い。真夏ほどは暑くない時に着れば良いと思っていた服、今日の天気にはちょうどいいのだけど、色が合わない。しかたない、来年にまわしますか。明日は白露。

読んでいるだけで、賢くなっていくように感じる本があるもの。『私の日本語雑記』(中井久夫)。出た時に買って、そのままにしてあった。2010年5月出版だから、もう7年になる。

梅雨前に読み始めて、中断して、また少し読んだ。走り読みしようと思ったけど、そうさせないものがある。もって生まれたものが違おうとしか言いようがない著者。頭の中はどうなっているだろうと思う。

おかげで読み手は少しくおすそ分け>をしてもらえらる。自分が考えて書いたことではないけど、米朝落語の世界のように、作品の中に入り込み、自分がまるで著者のような気になる。

いい本はこういうことが起こる。だから精神の糧になる。特にこの本は一気に読まなくてもいい。抹茶を一杯ならぬ、本を一杯。すーと気持ち澄み、我にかえり、聡明さを一瞬味わえる一冊。時々、一杯。

2017/9/1
1 (月)

9.11の東京

朝から曇り空。夕方から降り出すよう。そのせいか少しむし暑い。暑さ寒さも彼岸まで。

ラジオから「9.11」の話。そうだ、そうだった。2001年…、もう16年も前になるのか。以前にも書いたけど、あの日は朝から妙だった。

当日正午ごろに東京駅に降りた。仕事で前泊する日だった。台風一過、秋の空気を期待したのに、生暖かい風が鼻のまわりにまとつた。友人と会って下町を案内してもらうことになっていたから、むし暑いのはイヤだなあと思いながら、改札へむかった。

ゆっくり下町を散歩して、どのへんだっだろう、高台のところで目線を正面にむけて見えた虹。空が上ではなく、目の前に広がっている。生暖かい空気のせいか、虹がぼやけているよう。友人と二人、たちすくんで眺めるその自分の姿が今も頭に浮かぶ。

夜になって上野のどこかで食事をした。食後の散歩をしていると友人の具合が悪くなった。早く家に帰ったほうがいいと、分かれて、ホテルに着いたのはたぶん10時すぎ。テレビをつけると、何かおかしい。いつもの生活圏でもなく、別の世界に入り込んでしまったような感覚。

事と次第がわかるまでに少し時間がかかった。わかってから、これは東京を離れなければと思った。翌日仕事を終えてすぐ、急ぎ立てられるように新幹線に乗ったのだった。あの日のことを、なぜその朝からよく憶えているのだろう、記録もしていないのに。それが今も不思議。

2017/9/18
(月)

晩年の青春

前線の雨から台風の強い風。大阪市内台風の雨は少なかった。朝には晴れてきた。気温はそれほど下がらず、少しむし暑い。まもなく彼岸、暑さ寒さも彼岸まで。

食欲衰えず、大学の公開講座に通い、家事では娘と張り合う85歳の母。先日6年ぶりにあった友人の母娘二人ぐらしの近況。

昔なら85歳と聞けば超高齢者のイメージ、でも今は違う。訃報で70代半ばで「老衰のため」とあると、違和感さえある。

友人のお母さんには出会った頃に1, 2度お会いした。ああいう感じの方が老いても元気なんだ…と昔の様子を思い浮かべた。

身近に知る80代以上の元気な人たちは皆、気丈。今もビシッとものを言う。そして人とよく話す。声を出し、頭を働かせる。

人と話す、対話する、議論するのは、感情も動かされるから、いい全身運動になっているのかもしれない。

妙に老成してしまっはつまらない。そういえば今も頭に映像が浮かぶ場面―門下生の発言に激昂した恩師、右手の水コップがシャン！

学生時代のことだけど、よく憶えている。恩師を囲んで門下生5名ほどとの読書会。コップが割れるほど真に怒った恩師。

怖いというより、今から思えば清々しく感じていた。本当に大事なことをしっかり正し、相手に迫る。そういう姿勢を見せてもらった気がした。

『晩年のスタイル』（エドワード・W・サイード）に、「円満な和解と完成と達成に逆らいつづけること、これが〈レイトスタイル〉である」。

晩年の青春、そうとらえれば俄然、面白さが湧いてくる。

2017/9/23
(土)

チェジュ

今年もお墓の草取り行事に出かけた。チェジュ空港に着く直前、ハルラ山に雲海。



24日(日)の午前8時前から親戚一同が二手に分かれて、作業。今は正午前には終了、その後豚カルビ焼の昼食で慰労会。その後おばさん家のハウスへ移動。ハウスの外で育ったカボチャを他の親戚におすそ分け。ハウスの中は、「ごまの葉」。





25日(月)2013年以来訪ねている「観音寺」。今年の十五夜は10月4日。韓国では大事な秋の祭事。すでに飾り付けがされていた。彼岸花も咲いていた。





今年も無事にお墓の草取行事を終えたが、チェジュへ着いた日にイルカを遠目にみた。親戚と一緒に海鮮食堂で昼食をとり始めた時、従弟がガラス張りの窓の外を指さして、「あっ、イルカ、イルカ！」と韓国語でさげんだ。えっ、チェジュの海にもイルカがいるの？とみると、尾っぽで半円を描くように泳ぐ群れが見えた。従弟も久しぶりにみるらしい。いいお土産話になった。



2017/9/27
(水)

読み書き

午後から雨の予報。朝はよく晴れていたが、すっかり曇り空。今日明日の雨があがったら、また少し秋が進むとか。十五夜も来週。

「ぜったい面白いですから、もう差し上げます！」。表紙も入ると厚さ4.5cmにもなる単行本『ソマリランド 謎の独立国家』（高野秀行）。渡されたときはハードボイルド小説かと思った。

とりあえずプロローグ～地上に実在する「ラピュタ」へ～を読んでみると、実在する国のルポだった。7章に及ぶほど、そんなに書くことある国？何がどう面白かったのか、後のたのしみとしよう。

読む、書く、どちらも自分をよく表す、自分の＜今＞が出る。本を持ち寄り紹介し合うサロンの2回目、何を持っていくか困ってしまった。どれも人にお勧めするにはニッチすぎた。

不特定多数の人に読んでもらう記事を頼まれ、書いた。いつものように書くとダメで、自分では平面的に感じる案内書きのような文が好まれた。よくもわるくも人間、自分を越えることはできない。